

「きずな」「まなび」で子どもも教師もつながる「小しっ中ちゆう連携」

鳥取県 北ほくえい栄町立北条小学校

北栄町立北条小学校は、大半の卒業生が進学する同町立北条中学校と連携し、小学校低学年のうちから中学生と交流する機会を設けている。中学生の姿を見ることで、小学生は学習や生活習慣に対する意欲を高め、小学校の教師は子どもの発達段階を踏まえた指導を工夫するようになったという。

取り組みのポイント

- ◎北条小学校がある北栄町北条地区は小学校と中学校が共に1校で、卒業生の大半は同校から歩いて2～3分の距離にある北条中学校に進学する。北条小学校の児童数は418人、北条中学校の生徒数は225人
- ◎2002年に取り組みを始め、09年からは北条幼稚園を含めた幼小中連携にも取り組む。小中連携では、子ども同士が交流する「きずな」と、教師が協同で授業づくりや学習指導を研究する「まなび」の2つのプロジェクトを、連携の柱としている
- ◎これまでの研究を生かしながらも、内容を固定しすぎず、見直しや改善をしながら取り組みを進めている

S c h o o l D a t a

◎1961(昭和36)年開校。「豊かな心を持ち、未来をたくましく拓く子どもの育成」を主題に、道徳と国語の研究に取り組んでいる。2011年11月には、中小研究発表大会で道徳の授業を公開した。



校長 北村秀徳先生

児童数 418人 学級数 19学級(うち特別支援学級4)

所在地 〒689-2102 鳥取県東伯郡北栄町国坂680

TEL 0858-36-2063

URL <http://www.torikyo.ed.jp/hojo-e/>

公開研究会 未定

◎背景

義務教育9年間を見通す視野を連携によって育みたい

北ほくえい栄町立北条小学校は、ブドウ畑や水田が広がる鳥取県中部に位置する。以前は農業を営む家庭の子どもが大半だったが、最近では鳥取市や米子市に通勤する家庭の子どもも増えている。同校の卒業生のほとんどは、同校から200mほどの距離にある同町立北条中学校に進学する。このような環境を生かし、小学生と中学生との交流など、両校はさまざまな取り組みを行っている。北村秀徳校長は、中学校と連携するねらいを次のように話す。

小中接続——子どもの学びを中学校へつなぐ

「小学校と中学校には『文化』の違いがあります。そこに大きな壁を感じ、それぞれの学校で完結していました。しかし、私たち小学校の教師には、中学校に送り出した子どもがどのように成長するかを見取る責任があります。また、北条地区の小中連携では『豊かな人間性と確かな学力及び国際人としてのコミュニケーション能力を身に付け、社会に貢献できる人』の育成を目標にしています。義務教育9年間でこうした子どもを育てるには、中学校での姿もイメージしながら見通しを持って指導する必要があると考えました。子どもをつなげるために大人同士もつながら、両校の教師が共に子どもを育てる環境を整えることが大切だと思っています」

◎ 取り組み内容と工夫

「きずな」「まなび」の二本柱で 交流面と学習指導面の連携を図る

北条小学校と北条中学校の連携は、文部科学省の学力向上フロンティア推進事業への参加により2002年度に始まり、06年度から3年間、鳥取県の「小中連携強化事業」に取り組んで本格化した。同時に同町教育委員会の方針で、小中連携のための加配も始まった。09年度からは北条小学校に隣接した北条幼稚園も含めた幼小中連携事業「ドリームプロジェクトX」を立ち上げ、現在に至っている。小中連携は、両校とも担当を校務分掌に位置

付け、加配された教師がその任に当たる。連携には、2つの柱がある（P.18図1）。

① 「きずな」プロジェクト

小学生と中学生が相互に行う交流で、次のようなものがある。

◎ 特定の学年間の交流

小学2年生と中学1年生、小学3年生と中学2年生、小学4年生と中学2年生というようにペアになる学年を決め、各ペア学年が年1回、北条中学校で一緒に活動を行い、交流する。同じ児童と生徒がなるべく長く触れ合えるよう、ペアになる学年は連続させている。

◎ 「読み聞かせ隊」の実施

中学生が年5〜6回、朝読書の時間や放課後などに北条小学校に来て、本の読み聞かせを行う。中学生も小学生も希望者が参加する。

◎ 中学校の授業や行事の見学

小学生が中学校の文化祭や運動会などを見学する。また、中学校の授業の雰囲気を知るため、小学6年生には年1回、中学3年生の授業を1時間見学する機会を設けている。かつて北条小学校と北条中学校に勤務し、小中連携担当をしていた荒木啓子先生は、こうした交流の意義を次のように話す。

「小学生にとって中学生はお手本です。先輩の言動には、保護者や教師の言動の何倍もの説得力があります。『自分もあんなお兄さんやお姉さんになりたい』との思いから、生活習慣の改善や、学習意欲の高まりが見られ



北村秀徳 Kitamura Hiromori
北条町立北条小学校校長
「教師には、常に自己研鑽に励む使命がある。教師が努力してこそ、子どもは学びに向かう」



中本祐一 Nakamoto Yui
北条町立北条小学校
4学年担任。「どのような時にも、子どもから信頼される指導を追求していきたい」



金光美恵 Kanemitsu Mie
北条町立北条中学校
英語科、小中連携担当。「日々の努力の積み重ねが、大きな力を生む。頑張れば必ず夢が叶うことを伝えたい」



荒木啓子 Aki Keiko
北条町立大栄小学校
6学年主任。「成長を手助けできるように、常に子どもを見つめ、指導を工夫できる教師でありたい」



石亀伸弥 Ishigame Nobuya
北条町立大栄中学校
教務主任。「困難な時も揺るがない自我を持ち、自分の意見を自分の言葉で述べられる子どもを育てたい」



桑本康昭 Kuwamoto Yasuaki
北条町教育委員会指導主事
「先生方、地域の人たち一人ひとりの出合いを大切に、共に子どもを育てていきたい」

ます。また、思春期にある中学生は大人に対して感情を乱すことがあります。小学生には優しさや思いやりを素直に示します。小学生との交流は、中学生が本来の自分の良さに

図1

北条小学校と北条中学校の連携の年間計画（2011年度）

	通年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小・中学校	読み聞かせ (年5～6回)	ドリームプロジェクトX全体会議			小2&中1交流	小3&中2交流		小4&中2交流	学習発表会(音楽)	中学校文化祭			中学校の入学説明会 (小6の体験学習)
小・中学校	教師の授業振り返り (年3回)	「家庭学習の手引き」の配布		合同授業研究会	「家庭学習の手引き」実践カードの実施とまとめ			「家庭学習の手引き」実践カードの実施とまとめ	合同授業研究会			「家庭学習の手引き」実践カードの実施とまとめ	

* 同校の資料を基に編集部で作成

目標
将来の夢や希望に向けて、生活の中で自らの生き方を自覚し、正しい判断の下、自らの手でたくましく生きる資質と能力を身に付ける

さずな

目標
児童生徒の「思考力・表現力」「学習意欲」を高め、確かな学力を身に付ける

まなび

気付き、自尊感情を育む機会にもなるのです」
②「まなび」プロジェクト

両校の学習指導の方向をそろえるため、「ねらいの明確化」「具体物の使用」「自力解決、教え合いの時間の確保」「学習準備物の点検」「時間を守る」「子どもの声を積極的に取り上げる」の6つの指導ポイントを共有し、定期的に合同授業研究会を開いている。

11年度は新たに家庭学習指導に力を入れようと、次のような取り組みを「まなび」プロジェクトに加えた。

◎「家庭学習の手引き」(図2)の配布

家庭学習への保護者の理解と協力を呼び掛けるプリントで、4月に各家庭に配布した。

◎「家庭学習の手引き」実践カードの実施とまとめ

家庭学習にどれだけ取り組んでいるかを子ども自身が記録するカード。普段の家庭学習を振り返り、家庭学習が十分に出来ていれば○、不十分であれば△を記入する。年3回、1週間ずつ、両校で同時に行う。

「さずな」と「まなび」を組み合わせた活動も始めた。北条小学校に中学3年生を招き、中学校の学習では予習・復習がいかに大切かを6年生に話してもらう機会を設けたのだ。北条中学校の小中連携担当である金光美恵先生は、このねらいを次のように話す。

「小学生の頃から予習・復習の習慣を付ければ、中学校の学習に早くなじめると考えま

した。『予習した方が授業がよく分かるから楽しいよ』といった先輩の体験を聞くことで、小学生のやる気を伸ばせればと思います」
両校が連携した取り組みの様子は、小中連携に特化した学校だより「小っ中連携！」(P.20 図3)を両校共同で月1回発行して、保護者に伝えている。

子どもの実態に応じて
絶えず活動を変化させる

2つのプロジェクトでの活動は、両校の小中連携担当がまず学級担任や管理職の意見を聞き、それを担当同士で検討していく。どの教師も当事者意識を持って取り組めるよう、毎年4月に両校の全教師が集まり、前年度の成果と課題を話し合う機会を設けている。

「子どもの個性は多様であるため、同学年であっても、前年度の活動が今年度の子どもに合うとは限りません。また、活動の準備に時間が掛かるといった課題が見付かることもあります。そのため内容はあえて固定せず、子どもの実態や先生方の声に合わせて、毎年見直すようにしています」(北村校長)

取り組みを固定し過ぎず、状況に応じて改善していく柔軟な姿勢は、取り組みの変遷にも表れている。連携を始めた当初は小学生と中学生が交流する「さずな」が中心だったが、2～3年後、授業づくりの意識をそろえる「まなび」を新たな柱として加えた。

小中接続——子どもの学びを中学校へつなぐ


図2

家庭学習の手引き(5・6年生用)

家庭学習の手引き 北条小学校 5・6年生

家庭学習の意義

- 1 学校で学習した内容をより確かします。
- 2 家庭での学習習慣が身に付きます。
- 3 自ら学ぶようになる態度や学習に対する自信がつけます。
- 4 脳が活性化し、鍛えられます。
- 5 がまん強さ・根気・集中力が身に付きます。
- 6 家族がふれあう機会となり、子どもの精神の安定につながり、心身も健康も健やかに育ちます。



保護者の皆様へ

北条小学校では、子ども達の学力向上に取り組んでいます。そのためには、家庭の協力が必要です。家庭と協力し合うことで、さらに子ども達の力は何倍にも高められます。家庭学習の習慣化が子ども達の「生きる力」を高めていくと考えられます。ご協力をお願いします。

生涯にわたる「学び」へとつながります。

家庭学習 こんな内容・方法で

5・6年生はこんな時期

- 一人前に扱ってもらっているか、大切にされているかなど、大人の評価が気になります。
- 自分を客観的に見つめたり、友達と自分を比べたりするようになります。
- 考える力も大人並みになり、時には、大人への反抗も見られます。
- 心も体も急激に変化します。心と体のバランスがくずれ、不安定になることもあります。
- 得意な教科と苦手な教科を意識し始めます。
- 先生や家族のアドバイスにより、学習に対する意欲や興味、関心が大きく左右されます。
- 小学校の学習のまとめをして、中学校へつなげる大切な学年です。

◇見守って 伸ばす 高学年◇

学校の主な学習内容

- 家庭科の学習が始まります。
- 外国語活動が増えます。(週1時間)
- どの教科も学習内容が多くなります。
- 新出漢字は、5年生185字、6年生180字です。
- 筋道を立てて考える論理的な内容の学習や、抽象的なものの見方が求められます。
- 自分で課題を見つけ、解決していくことのおもしろさを体験させ「学び方」や「もの考え方」を育てます。


家庭学習の習慣化づくりのポイント

家庭学習を始める前に

- 学校からの連絡やお便りを親に手渡し習慣をつけさせましょう。
- 宿題を自分で確かめ、やる順番を決めさせましょう。

声かけの工夫をしましょう

子どもの話をよく聞き、成長を温かく見守ることで、将来の夢や目標をもって努力するようになります。



1 決まった時間に学習する。

2 集中して学習する。(時間のめやす 60分)

3 家庭学習をしているときは、テレビを消す。

4 整頓された場所で、よい姿勢で学習する。

5 「1日のら」の日記を書く。

6 前日に次の日の学校へ行く準備をする。(時間割をする・鉛筆をけずる・持ち物の用意をする)

※宿題以外の学習にも挑戦させましょう。
※毎日「1日のら」にサインをお願いします。
子どもが安心します。

自主学習にチャレンジ

学校での学習をより振り返りながら、教科書やノートを参考にして、苦手な教科も粘り強く取り組めるように、アドバイスしましょう。

国・算・理・社・家庭科・音楽・総合……、自主学習の素材は、満載です。まずは、好きな学習・得意な学習から始め、毎日取り組めるようアドバイスしましょう。

国語 音読

- 間を取りながら読むなど、自分のためを決めて練習しましょう。
- 詩や俳句、短歌などを暗唱したり、朗読したりしましょう。
- 他の教科の教科書を音読すると、重要な用語や内容を理解できるようになります。

漢字

- 漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。
- 習った漢字を使って、熟語や短文を作りましょう。

読書

- 家族で感想を語り合い、共に心を通わせることができる関係を築きましょう。

算数 計算

- よく間違える計算は、繰り返し練習しましょう。
- 問題ごとに、答えの確かめを自分でするようにしましょう。
- 定規やコンパスを使って正確な図形がかけられるようにしましょう。
- 問題文を声に出して読み、「わかっていること」「きかれていること」を正確に読み取るようにしましょう。

家庭科

- 問題の内容を簡単な図に表してから、式を立てる習慣を作りましょう。
- 家庭科で学習したことを、家庭生活の中で実践しましょう。
- 学んだことを生かし、家事の分担を考えましょう。

自主学習にチャレンジ

- その日に学習したことをノートに工夫してまとめてみましょう。
- 理科や社会、総合的な学習等で学習した内容で、もっと知りたいことを資料を使って調べ、ノートをまとめてみましょう。
- 地名、県庁所在地、山地、川、世界の大陸、主要国の名前、歴史上の人物、電流、天気の変化、水溶液の性質……など、ノートを付けてくらしをまとめてみましょう。
- すすんで学ぶ好奇心を育てるために、図鑑や辞典を子どものそばに置きましょう。
- リコーダーや鍵盤ハーモニカの練習にも進んで取り組ましましょう。

規則正しい生活習慣

「学力」の向上には「体力」が必要です。

- 1 「早寝・早起き・朝ご飯」の支援をお願いします。
- 2 毎日、少しずつでも運動ができるよう声かけをお願いします。
- 3 テレビやゲームの時間を話し合って決めましょう。

小学1年生用、小学2年生用、小学3・4年生用、小学5・6年生用、中学生用の5種類を作成。□で囲んであるところは、学習時間のめやすを除き、小学生用の全学年で共通化している部分。他は子どもの発達段階によって変えている。小学生用と中学生用は、基本的な構成と「家庭学習の習慣化づくりのポイント」の中心部分が共通

*同校の資料をイラストのみ変更して掲載

「家庭学習の手引き」は、Benesse 教育研究開発センターのウェブサイトからダウンロードできます
<http://benesse.jp/berd/>→情報誌ライブラリ (小学校向け)

「子ども同士が直接交流する機会は、多くは設けられません。その中で小中連携を強めていくために何が出来るかを考えた末、毎日の営みである『授業づくり』を共に行い、小中で共通化できるところはしていこうと話がまとまりました」(荒木先生)

北栄町教育委員会の人事交流により、両校で毎年1人ずつ教師を交換していた時期もあった。小学校の細やかな指導を中学校に広げ、中学校の専門性のある指導を小学校で生かすというように、小・中学校それぞれの特長を取り入れようとしたのだ。4学年担任の中本祐二先生は、北条中学校と北条小学校に勤務した経験を次のように振り返る。

「中学生を教えたことで、小学校に戻ってからはそれまで以上に子どもの成長を思い描きながら指導できるようになりました。同時に、小学校と中学校では子どもの発達段階が異なること、それぞれに違った教育のスタンスがあることも、改めて感じました」

●成果・今後に向けて
教師全員が無理なく参加できる体制づくりを目指す

両校の指導に当たる北栄町教育委員会指導主事の桑本康昭先生は、小中連携で子どもの学習意欲が高まっていると話す。

「小学生は、やがて自分たちが中学生として小学生と交流する日が来ることを楽しみに

19 VIEW21 [小学版] 2011 Vol.4

しているようです。「いつか、自分がしてもらったことのお返しをしたい」「小学生に対して恥ずかしくない自分でいたい」という気持ちだが、目の前の学習に精いっぱい取り組む原動力になっていると思います」

中本先生は、教師の意識も変わったと話す。「異学年の交流の中で、普段の授業とは異なる子どもたちの姿を見ることで、小中連携は必要なものと考え先生が増えてきました。中学校を含めた子どもの姿を知り、『自分の学年ではこのような姿を目標にしよう』と、学年ごとの見通しを持って育てられるようになってきたと思います」

一方、長く取り組んでいるからこそその課題もあると、北村校長は話す。

「誰が異動しても連携を続けられるような体制づくりが必要です。また、2つの柱に当てはめようとする義務感が強くなってしまうと、『忙しいのに取り組まなければならない』『結局、効果的な活動にはならなかった』と、消極的な声が聞かれることもあります」

この点で参考になるのは、町内にある北条町立大栄小学校と同町立大栄中学校の連携だ。大栄中学校の教務主任である石亀伸弥先生は、両校の連携について次のように話す。

「年間スケジュールにとらわれず、既存の

図3 学校だより「小中連携！」



常に連携を意識するというねらいを込めて、「小中」と副詞「しよっちゅう」をかけたタイトルとした。「さぎな」や「まなび」のねらいや取り組み内容を細かく伝える。11年度は、「さぎな」の交流として、小学2年生と中学校1年生が英語を使った活動、小学3年生と中学2年生が水泳、小学4年生と中学2年生がゴスペルの鑑賞を行った

*同校の資料をイラストのみ変更して掲載

北村校長が重視する

校長としての役割

連携活動には、継続性が求められます。先生方の熱意に頼るばかりでなく、自ら企画を立てるなど、校長自身が積極的に取り組む必要があります。管理職が率先してこそ、先生方の心を動かせるのです。

本校には、これまでの連携の成果やノウハウが蓄積されています。この貴重な財産を次の世代に引き継げるよう、教育委員会や地域の方々の協力を得ながら人的体制を整えていきたいです。そして、先生方のゆとりの時間を確保し、誰もが当事者意識を持って取り組めるような体制を追求していきたいと考えています。

取り組みの見直しや新しい試みを取り入れながら出来ることを出来る範囲で続ける、いわば緩やかな連携です。先日は大栄小学校の先生から学習発表会の合唱指導を頼まれ、本校の音楽教師が空き時間に教えに行きました」

北条小学校と北条中学校の連携は過渡期を迎えていると、中本先生は説明する。

「これまでの継続によって、取り組みの形が整ってきました。その半面、ねらいがあいまいになったり、教師の充足感が薄れたりしている面があります。スクラップ・アンド・ビルドの精神で従来の活動を見直し、より実りのある連携を目指して、今後の形を模索していくことが重要だと思っています」